

ひこうき雲

未来を見据えた住宅造りが必要になつてきました。

時代・環境に即応した住宅造りが未来の生活を豊かにしてくれます。



耐震や火災に強い住宅が求められています。

耐震強度偽装事件以来、住宅の耐震性能が問題になっていきましたが、住宅にとって耐震性はいつも最も重要な考えなければならぬ問題です。公庫融資に替わる新しい銀行融資「フラット35」の融資基準においても、性能表示制度の新耐震基準以上という規定があらはめられ耐震性能は益々重要になっていきます。火災報知器の設置も本年度7月からは、設置が義務化され耐震性や火災に対する対応が強化されることになりました。

省エネルギーへの取り組みが益々重要に!

地球の温暖化が叫ばれて久し

発行所
株式会社 松下孝建設
発行人 松下 孝行
編集人 山下 幹廣
■本社
〒891-0108
鹿児島市中山1丁目14-29
TEL 099-267-7594
■奄美営業所
〒894-0004
奄美市名瀬崎町210
TEL・FAX 0997-53-0704
■国分営業所
〒899-4316
国分市上小川1541-3
TEL 0995-48-6242

「松下孝建設」では次世代の省エネ住宅の開発に着手!

いにかかわらず、本年は鹿児島県でも例年になく積雪に見舞われましたが、逆に春の訪れは年々早まってきているようです。今年もまた異常に暑い夏か冷夏という全く相反する予想がさるれ、専門家も混乱するほど地球の温暖化は深刻さを増しているようです。将来の地球環境を考えれば、省エネルギー住宅の建築が益々重要になります。

OB施主のリフォームにも対応可能な技術開発!

この様な試みは、新築住宅にのみ適用するために開発されているのではなく、松下孝建設のOB施主の皆様の増改築にも適用できる技術として灯油の高騰が続いている中、開発を急いでいるものです。

エネルギーの自給を視野に様々なチャレンジ!

今後のエネルギー事情については、石油や天然ガスなどの化石燃料に頼らない様々な方向が模索されています。「空気の熱でお湯を沸かす」というキャッチフレーズで販売されている先に紹介した「エコ・キュート」など、国策で開発された給湯器も製品化され、省エネルギー機器として普及し始めています。

この様なエネルギーの大幅な革新時代に、最も重要となるのは、どの様なエネルギー設備も受け入れることが可能な住宅性能です。その過渡期となるエネルギーが電力なのです。産業廃棄物などからエネルギーを取り出すバイオマス、天然ガスや石油を燃料として発電する燃料電池、工場の廃熱などを発電に再利用するコージェネレーション、太陽光発電や風力発電、小型水力発電など天然エネルギーの多くが電力に変換されて消費される現在、オール電化に適した住宅造りは最低限必要とする住宅性能といえるでしょう。

エコロジーこそ、これからの住宅に求められるもの。

住宅業界において今、最も熱く語られているのがエコロジーの問題です。エコロジーとは、環境破壊に対する生態学的な対抗策で、自然や天然に由来する資源の有効利用やリサイクルが可能かどうかを追求し、それによって枯渇していく有限な資源を少しでも子孫に残してあげることを目的としています。また、コストパフォーマンスの高い化学製品から、自然素材を積極的に採用する方向に転換し、自然

環境と共存できる快適性を獲得しようとするところでもあります。例えば、大気汚染を防止する切り札ともなる木材は、適正な成長期に伐採しないと、酸素を造り出すよりも消費する側に変わってしまいます。霧島杉の場合には、60年が伐採の目安といわれています。それを過ぎてしまつて成長は遅くなり、成熟期を迎えて酸素の供給は少なくなつてしまうのです。伐採期を迎えた樹木は、最も強度の高い時期でもありません。用材に活用すれば優れた構造強度を発揮してくれませんが、伐採しても二酸化炭素は、その木が燃やされるまで木の中に保ち続けられます。再び植林することで若い樹木は二酸化炭素を活発に吸い、酸素を供給してくれるのです。この様に長寿命の木造住宅を建てて住まわることが第一のエコロジーであり、その住宅のまわりに樹木を植えることが第二のエコロジーになります。

住宅を建てる前に、是非各展示場・建築現場をのぞいてください。

寒冷地の北欧で今最も注目されているのが、無暖房住宅の可能性があります。断熱性能、気密性能、換気性能を極限まで高めて、極寒の気候下でも暖房器具を必要としない住宅を目指しています。熱源は人の体温と照明や設備機器からの熱です。住宅は大きく変わろうとしています。

赤トンボ

▼日銀の政策がO金利を脱し通常の金利制度に移行することが決定されました。当分は経済動向を見守りO金利を継続するということですが、金利の上昇は住宅ローンに直接響いてきます。更に前号で紹介しましたように、消費税の動向が気になります。都市部では地価の上昇も本格化しているようです。新築の計画をお持ちの方は、早めに検討された方が賢明なようです。

▼耐震強度偽装は北海道にまで飛び火し、警察の手にゆだねられました。暴かれていない耐震強度偽装マンションは、まだまだ全国各地に存在しているようです。コストパフォーマンスだけを求めても所詮は空中の楼阁、その様に見えるしまうのもこれだけ多くの偽装マンションを見せつけられては仕方ないことのようにも思えます。

▼気候の良
い春も終盤に近づき、もうすぐ梅雨、季節の変わり目は、新年度の始まりとも重なり肉体的にも精神的にも負担の多いときです。更に花粉症の方には大変な季節の到来です。体力を温存して無理をしないことが一番ですが、農作業も繁忙期を迎え、そんなことは言っていられないのが現実です。くれぐれもご自愛のほどお願い致します。



住まいの温度差 - 2

知らなかったでは済ませられない温度差と健康被害

新築したからこそ起こる病気もあります。

多くの建て主は、新築すればどんな住宅でも快適になるはずだという思いこみがあります。確かに現代の住環境は昔と比べて快適になりましたが、正しい施工をしてくれる施工店を選ばなければ、昔とは比較にならない程、建材や不良設備などからの健康被害が深刻化しています。したがって建て主の皆様にも、欠陥住宅から受ける健康被害とはどんなものか、欠陥住宅を建てない、建てさせないためにはどこに注意すれば良いのか、正しい知識が必要になってきました。VOC(揮発性有機化合物)といっても木材からでもですし、消臭剤や洗剤など様々なものが発生源になっています。大切な家族を喘息やアトピーから守るためにも正しい建材の知識が必要です。



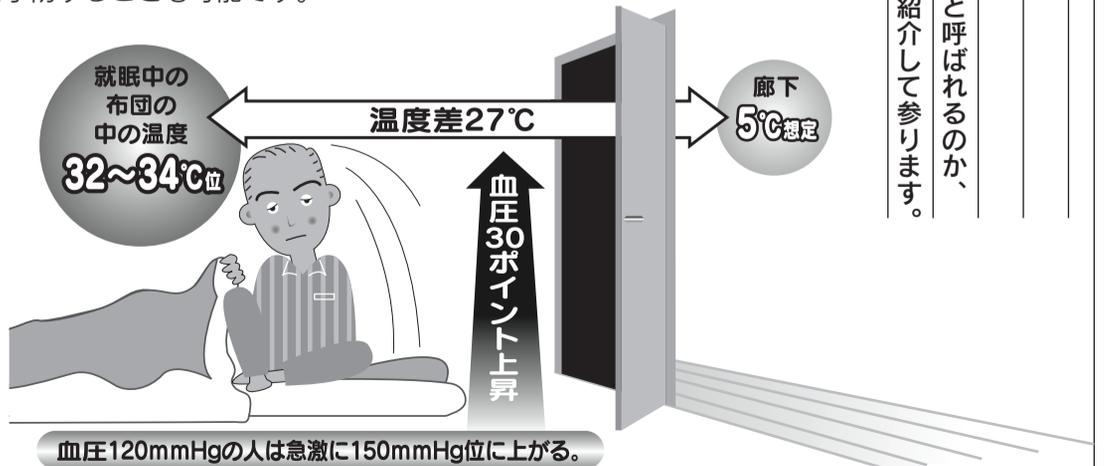
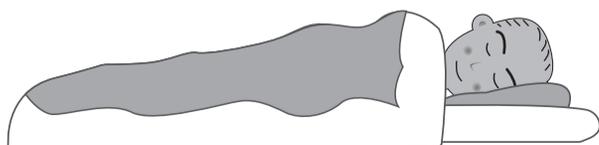
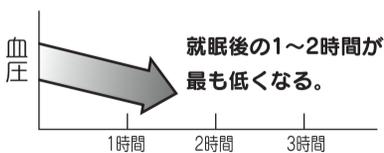
家族を守るはずの住宅にこんな危険が……。

これから住宅建築を考える場合に最も重要な要素となるのが、住宅が健康に及ぼす影響です。本来、人々を外気の寒さ暑さなどの自然条件や危険から守るはずの住宅も、その性能が悪いと、かえって危険を助長する凶器に変わってしまいます。中でも重要なのが住宅内の温度差です。前回も説明致しましたが、下のイラストのような、温度差が人体に及ぼす影響を「ヒートショック」といいます。暖かいところから冷たいところへ移動すると急激に血管が収縮してしまいます。それが脳卒中や心臓病の発症原因になってしまうのです。脳卒中は、長い間、寒冷地の塩分のとり過ぎによる病気と思われてきましたが、塩分の獲り過ぎよりも住宅内の温度差の方が数倍も危ないことが分かって参りました。高性能住宅の普及に伴いそれらが年々解消されるにつれて、寒冷地の脳卒中は確実に減っています。現在では、寒冷地よりも暖かい群馬県や鹿児島県が脳卒中の多発地帯に変わっています。



室内の温度差がなぜ危険なのでしょう。

温度差がなぜ問題なのか?それは血圧の上昇と密接に関係してくるからです。1日の内で血圧が最も低くなるのは、就眠後の1~2時間だといわれています。このような寝ている(低血圧)状態から急に立ち上がりますと、それだけで血圧は**10ポイント**も上がります。高血圧の人やお年寄りなどは、就眠中に尿意を催してトイレに立とうとするとそれだけでも危険です。さらに、就眠中の布団の中の温度は、夏・冬ともあまり変化がなく32~34℃位といわれています。例えば、冬、今までの一般的な住宅では廊下は暖房していませんから、5℃位に想定してみても、布団から廊下に出る間の温度差は27℃以上もあります。この場合、血管が急速に伸縮し、血圧は急激に**30ポイント**位も上昇します。これが**ヒートショック(温度変化による急激な血圧上昇)**といわれる現象です。普段、血圧が**120mmHg**位の健康な人でも、急激に**150mmHg**位にあがってしまいます。このような、急激な血圧の変化に対応することが困難なお年寄りや、高血圧、心臓病などの病歴を持つ人は、弱った血管が切れるなど、何らかの障害を受ける原因になります。は、温度差を解消し住宅性能を上げるために様々な努力と技術革新を開発してきました。夏も冬も温度差の少ない環境は、冷房暖房効果の高い省エネルギー住宅になります。「エコ・ハートQ21」工法ならば、脳卒中や心臓病などの成人病や家庭病を予防することも可能です。



本物とは、何か?

口先だけの高性能住宅に騙されたいでください!

工法シリーズ

3

【松下孝建設】の住宅性能

前回は、住まいの温度差が何故出来るのか、構造など、施工に伴う理論面を紹介しましたが、今回からは、どうして温度差のない住宅が健康住宅と呼ばれるのか、温度差が引き起こす様々な問題を身近な健康面から紹介して参ります。

お施主様ご訪問

「松下孝建設」のお施主様にお聞きしました。

お元気ですか。

お施主様 **K邸** (5人家族) (建設地) 鹿児島市石谷町3021番地

おじいさんが植えた杉の木が使われている温かい家族の家。



▲ご家族の仲むつまじい雰囲気伝わってきます

幼稚園年中組の二人の男の子が迎えてくれました。

K邸は、美しい奥様の膝に抱かれた、現在二歳のお嬢さんが生まれた年に完成したというところで、今年で築二年になる、木材がたっぷり使われた「自然素材の家」タイプの住宅でした。

ご主人は、教師で現在は薩摩川内市に勤務されており、毎日この石谷町から通勤されているとのことでした。

石谷町の高台に位置するK邸をお訪ねしたのは、四月の中旬で、周囲を生け垣に囲まれたK邸のすぐ近くではウグイスが美しい声で鳴いていました。藤の花が美しく咲き乱れ坂の頂上付近に位置するK邸は、大屋根が特徴の総二階の大きな住宅でした。

「ここに住宅を建てたのは、祖父の畑があつて将来、誰かが住宅を建てる時のためにと、その畑に杉の木を植えたことから始まります。祖父が木を植え、父が育てて、私が住宅を建てたということになりました。木材の乾燥の状態が残念ながら、この構造材全てとはいきませんでした。見えにくい部分には祖父の木をたくさん使っていたけりました。祖父や父の想いを生かしていただいた点でも、この住宅に

はとても満足しています。」とご主人。
「この住宅は基本的にオール電化住宅なので、主人が冬の寒い外から帰宅してもいつでもお風呂のお湯が沸いていますし、電磁調理器も火力が強く、昔のガスコンロのようにレンジ周りが汚れないので、とても満足しています。暖房はFF式ストーブをメインにしていますが、夏はエアコンを使用し、冬も一時的に暖房の為にエアコンを使用しても光熱費の年平均が九千円程度で済みますから、経済的にも満足しています。暖房はFF式ストーブ一台で全館暖まっています。」と奥様。



▲大幅な電気代の節約を可能にするソーラーパネル

本年二月に太陽光発電を開始しました。

南側の屋根には太陽光発電のパネルが取り付けられています。「今年の二月に4.2kwの太陽光発電パネルを取り付けましたが、現在金額にして七千円程度の発電量があります。Oエネルギーとはいきませんでした。現在、現在の電力使用量が平均九千円ですから、残りの二千元分、ピークとなる夏の発電量が今から楽しみです。将来は、燃

料電池なども使えるようになるでしょうから、暖房も電気式にして是非Oエネルギーを実現してみたいですね。こんな事が出来るのも住宅性能が優れているからで、この住宅はいつまでも夢を抱かせてくれます。床も天然の杉材が採用されているなど、子供たちが育つ環境としても、とても満足しています。」とご主人。
住宅の裏は、菜園と庭が広がり、その先は自然の谷になっており、K邸は眺望もすばらしい、とても素敵なお宅でした。



暮らしの便利情報

火災報知器 導入の基礎知識

■簡易的な装置

本年四月から、新築住宅には火災報知器の設置が義務づけられました。

既存の住宅でも火災が起る危険のある場所には、火災報知器の設置が有効である事は改めていうまでもありませんが、現在の火災報知器は昔のように大げさなものではなく、安価で比較的簡単に取り付け可能なものもありますから、設置ご希望の方は松下孝建設までご連絡ください。

■情報収集

火災については皆様、非常に敏感に感じられていることもあり、従来も消火器等、様々な詐欺被害が起こっています。火災報知器に関しても今後、様々な違法性の高い押し売りも予測されますので、十分に知識を得た上で取り付けてください。

基本的に、家庭用の報知器の場合は、比較的簡易的で低価格のものが多く、そのような装置で充分です。ホームセンターなどにも火災報知器コーナーがありますから、自分の目で確認して納得できるものを取り付けてください。



